

理工系学部の新展開と 日本の科学技術の挑戦



2019年 10/19(土) 12:00-13:30

会場：グランドプリンスホテル京都

開設25周年を迎えた立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)と共に歩む理工系学部の新展開をご紹介しますとともに、日本の科学技術の挑戦のシンボルであるJAXAにおいて「はやぶさ2」プロジェクトを推進する宇宙科学研究所 國中 均 所長にご講演を賜ります。

- ・開会の辞
- ・理工系学部の新展開
- ・記念講演

「JAXA宇宙科学研究所の太陽系宇宙探査計画
～はやぶさ/はやぶさ2小惑星探査から深宇宙探査船団へ～」

講師：國中 均（くになか ひとし）氏

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 理事
宇宙科学研究所 所長

- ・閉会の辞

定員 400名
(理工系卒業生以外は
100名限定)

事前申込制・先着順



ご講演要旨：JAXA宇宙科学研究所の太陽系宇宙探査計画

～はやぶさ/はやぶさ2小惑星探査から深宇宙探査船団へ～

日本の宇宙技術は、1955年ペンシルロケット水平発射から始まりました。宇宙航空研究開発機構（JAXA）・宇宙科学研究所は、米欧とは技術的に一線を画してマイクロ波放電式イオンエンジンを独自に研究開発しました。そしてそれは、「はやぶさ」探査機の主推進として採用され、消耗知らずの無電極放電の優位性を最大級に活かして地球～小惑星間宇宙往復航海を世界に先駆けて実現し、小惑星イトカワの欠片を地球に持ち帰りました。改良されたイオンエンジンは、「はやぶさ2」を小惑星リュウグウに到着させ、今まさに探査が行われています。日本は、独自の技術で20機近い探査機を太陽系宇宙に散りばめて、深宇宙探査船団を構成し、46億年の歴史を探求しています。



作動中のマイクロ波放電式イオンエンジン（上）と宇宙動力航行する「はやぶさ」小惑星探査機（下）（地球と小惑星は、「はやぶさ」探査機による実写）

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）（同機構HPより）

政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核の実施機関と位置付けられ、同分野の基礎研究から開発・利用に至るまで一貫して行っています。2013年に、JAXAは経営理念を「宇宙と空を活かし、安全で豊かな社会を実現する」と定め、コーポレートスローガンに「Explore to Realize」を掲げました。

JAXA宇宙科学研究所（同研究所HPより）

宇宙科学研究所は、宇宙科学の特性に最適な組織体制・運営体制を実現し、大学との緊密な協働関係などにより、宇宙科学研究を推進するとともに、その研究成果を通じて、宇宙開発利用への一層の貢献を図っています。

宇宙科学研究所のミッションは、国内の大学・研究所・諸外国の宇宙機関と協力して、衛星・探査機・観測ロケット・大気球・国際宇宙ステーションを使用し、特徴ある優れた宇宙科学ミッションの立案・開発・飛翔実験・運用・成果創出を一貫して行い、それによる学術研究を強力に推進することにあります。

講師：國中 均（くになか ひとし）氏 略歴

【現職】国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 理事
宇宙科学研究所 所長

【学歴】1983年3月 京都大学工学部航空工学科卒業
1988年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了

【職歴】1988年4月 文部省宇宙科学研究所助手
2000年1月 同研究所 助教授
2004年8月 東京大学大学院工学系研究科科学際工学教授併任
2005年4月 同研究所 教授
2012年9月 はやぶさ2プロジェクトマネージャ
2015年4月 宇宙探査イノベーションハブ、ハブ長
2017年4月 宇宙科学研究所副所長兼務
2018年4月 現職

【研究】宇宙用高性能推進機関である電気推進を基軸に研究を行なっている。
他に例のない新方式となる「マイクロ波放電式イオンエンジン」を完成させ、
小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」により深宇宙実証を行なった。

【受賞】2010年度文部科学大臣特別賞受賞

【著書】「イオンエンジンによる動力航行」コロナ社

お申し込みについて

WEBサイト(<http://hajimari.info/2019kyoto/>)
または「100周年記念オール立命館校友大会」申込用紙をご利用ください

<受付期間> 6月20日(木)～9月30日(月) ※定員に達し次第、受付を終了します。

【申込受付に関するお問い合わせ先】100周年記念 オール立命館校友大会窓口 Tel:075-365-7726

